栄光八事新聞

2017年度
第２号

2017年　12月6日(水)
日本特殊陶業市民会館・フォレストホールにて
幼稚園まつり～音楽リズム発表会～が
開催されました☆

年中　赤2組
リズムダンス『くるみ割り人形』より

チャイコフスキーの三大バレエのひとつ『くるみ割り人形』より、『行進曲』『こんぺいとうの踊り』『花のワルツ』『トレパーク』の四曲をメドレーでお届けしました。踊りの中では、元気いっぱい行進する「おもちゃの兵隊」、ファンタジーの世界へ誘う不思議な「マリオネット」、お花畑で優雅に舞う「バレリーナ」、お菓子の城で楽しく踊る「舞踏会の人々」が登場し、それぞれのイメージを思い描きながら、子どもたちみんなで、お話の世界を表現しています。

年中　赤1組
リズムダンス『四季を巡ろう！メドレー』

春、夏、秋、冬。
日本では、一年の間に4つの季節が巡り、情緒あふれる味わい深い日々を過ごしています。今回、発表しますリズムダンス曲では、まさに四季の変化を　表現しました。
桜の木や花びらの美しさを表現する春。元気いっぱい、躍動感(やくどうかん)あふれる夏。ゆったりとした時の流れを感じる秋。深々と雪が降り続く冬。そしてまた、春が巡って来ます。
踊りの練習の中では、静かな曲に合わせて足音がしないよう走ったり、曲がテンポアップして来ると、ワクワクした気持ちで　はずむように踊ったり、様々な曲調にあわせて楽しむ子どもたちの姿が見られました。

年長　青組
器楽『フィガロの結婚』

モーツァルト作曲の歌劇『フィガロの結婚』の中で使用されている『恋とはどんなものかしら』と『序曲』の2曲を演奏しました。
『恋とはどんなものかしら』は、少しゆったりとした優雅さの中にも力強さを秘めた曲想です。
また、『序曲』では、テンポアップされ、強弱によるメリハリを感じます。どちらも大変有名で美しい曲です。そんな心地よい音楽に合わせ、子どもたちは気持ちよく演奏しました。

年少　黄組
リズム表現
『ようこそ！ジブリの森へ♪』

ジブリの森には、動物たちがいっぱい。うさぎやことりが遊んでいると、魔女のキキが現れて森の中を案内してくれます。
『いつでも誰かが』の曲に合わせ、可愛らしいタヌキたちが踊りだしたかと思ったら、今度は、『崖の上のポニョ』が素敵なお魚ダンス。すると、大きなトトロもやって来て、みんなで仲良く踊りました！

栄光学園　年長　役員共演
歌唱『希望の歌～交響曲第九番～』

シラー作詞ベートーベン作曲の『よろこびのうた』が、東日本復興の歌として編曲された、藤澤ノリマサさんの『希望のうた』には　歌詞の力を感じます。

笑ってるから幸せになれる
笑顔の力で世界てらそう

今、『ことばの力』が注目されています。便利、快適な時代が、むしろ人間の感性を開花させたのかもしれません。

全学年　歌唱
『パワーのマーチ』
『トゥモロー』

みなさんのパワーはどこにありますか？
体の中、心の中。
みなさんのパワーはどこから来ますか？
頑張れたとき、嬉しいことがあったとき。
パワーとは、一人一人の中から、こうして生まれて来るものなんですね。明るい明日、幸せな未来を思い描きながら、想いが伝わりますよう心をこめて歌いました。

編集だより

子どもの頃、一日の時間がとても長く感じられて、遊んでも遊んでも一日が終わらなかった印象があります。それが今は、本当に短く感じられて、一日どころか一年があっという間に過ぎていきます。皆さんは『ジャネーの法則』をご存知でしょうか。例えば、五十歳の人間にとって一年の長さは人生の五十分の一ほどですが、五歳の人間にとっては五分の一に相当します。それならば、五年しか生きていない人間にとっては、一年が長いと感じられるのも当然のことですよね。『ジャネーの法則』によりますと、「感受性豊かな子供の頃の経験は新鮮な驚きに満ちているため、経験の内容が豊富で長く感じられ、大人になるにつれ新しい感動が少なく単調になり、時が早く過ぎるように感じる。」のだそうです。いえいえ、今年の幼稚園まつりも、子どもたちの満ち溢れたエネルギーや笑顔に多くの感動をいただき、〇十歳過ぎた私の年齢でありましても、発表会当日の一日は、大変長く有意義な時間となりました。まさに、子どもたちのエネルギーは取り巻く全ての人々を若返らせてくれるのです。そんなかけがえのない幼児期だからこそ、今でしか味わえない様々な感覚を、より一層養っていきますよう、子どもたちの教育に力を注いで参ります。
保護者の皆様には、平素より大変なご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。引き続き、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

副園長　釜谷　康江